

第24回 ホソカワ粉体工学シンポジウム 「粉碎の実際とシミュレーション」

- 日時: 2017年11月6日(月) 14:30~17:00 シンポジウム
17:00~18:30 懇談会
- 場所: ホソカワミクロン株式会社 本社12階 大会議室
- 主催: 粉体技術談話会
- 共催: (公財)ホソカワ粉体工学振興財団
- 後援: ホソカワミクロン株式会社

◆プログラム:

1. はじめに (14:30~14:40) (総合司会)広島大学 名誉教授 奥山 喜久夫
2. 講演1 (14:40~15:40) (座長)広島大学 名誉教授 奥山 喜久夫

「DEMによるボールミル粉碎の解析と粒子径の予測」

東北大学多元物質科学研究所 教授 加納 純也

粉体シミュレーション法として代表的である離散要素法 (DEM) によりボールミル内の媒体挙動ならびに砕料挙動の解析を行い、粉碎限界粒子径が存在する原因、コンタミネーションが混入する原因等を探索するとともに、シミュレーション結果と実験結果との融合により粉碎過程における粒子径変化を予測する方法について紹介する。



3. 講演2 (15:40~16:40) (座長)ホソカワミクロン(株) 粉体工学研究所 所長 猪ノ木 雅裕

「各種液中粉碎における粉碎事例とその応用ー液体ジェットミル、ボールミル、回転ディスクミルを中心にー」

産業技術総合研究所中部センター グループ長 堀田 裕司

粉体の粉碎・解砕・分散は、セラミックス、プラスチック、先端複合材料の物性向上に重要な技術である。粉体には板状、球状、繊維状のものがあり、積層状態や凝集状態さらにはバンドル状態を形成している。機能性や機械特性などの材料物性の向上や成形性をコントロールするためには粉体の粉碎・解砕方法の特徴を知ることが必要となる。本講演では、せん断流を付加可能な湿式型の粉碎・解砕事例を中心に紹介し、その処理粉体の材料物性への影響について述べる。



4. まとめ (16:40~17:00) (司会)広島大学 名誉教授 奥山 喜久夫
5. 懇談会 (17:00~18:30)